

2022年6月 VOL7

Plasterer News



外国人のコロナ終息後に訪れたい国「1位は日本」に選ばれ、その理由では、「日本独自の文化や清潔さ」が多く見受けられました。

コロナ規制が緩和されはじめた事で、日本独自の体験を楽しみに来日する外国人旅行客の益々の増加が期待されることでしょう。

そしてそれらをターゲットにした施設や店舗が益々増えていく事を予想し、様々な日本壁の施工に力を入れております。

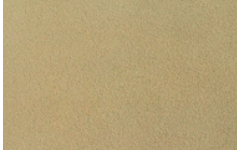
現在日本壁には、簡単に安く施工可能な既製品も多く開発されています。

当社ではそれら既製品の施工も可能ですが、2020年「伝統建築工匠の技：木造建造物受け継ぐための伝統技術」がユネスコ無形文化遺産に登録され、その中に左官（日本壁）」が含まれたこと事もあり、日本の伝統を守るため、高度な技術を必要とする本物の日本壁にも力を入れております。

本物の日本壁は既製品の日本壁に比べ、気品 重厚感 高級感において圧倒的な違いを演出してくれます。

ショールームにも多数の日本壁展示予定ですので、ご興味のある方は是非お問い合わせ下さい。

当社で取り扱う日本壁



聚楽壁

聚楽壁（京壁など）は、京都西陣にある聚楽第跡地付近で産出された「聚楽土」を使った土壁です。この土は非常に良質で、京都西陣のどこにでもある土ではなく、ごく限られた場所からしか見つからない非常に貴重な土とされています。その貴重な聚楽土を使い、高い技術を持った左官職人が仕上げる聚楽壁は、実に美しい土肌です。和室の風情やわびさびを静かに彩ります。



大津壁

大津壁は、石灰や色土、スサを混ぜてあるタイプの土壁です。大津壁に使われるのは、名前のルーツともなった滋賀県大津の江州白土と呼ばれる土。そして、配合される材料によって、泥大津、並大津、大津磨きの3種類に分かれます。泥大津は、比較的リーズナブルに仕上がり、並大津は鮮やかな色で上品に抑えた光沢でマットな仕上がりです。最高級の大津磨きは、非常に艶やかで、滑らかな仕上げ面が美しいのが魅力といえます。ただし、限られた左官職人にしか生み出せない技です。



錆壁

錆壁は、鉄粉や古釘の煮出し汁などを混ぜこんだ土壁のことを指します。塗った後に出てくる鉄分が錆びることで、褐色の斑点が浮かび上がってきて、独特な雰囲気を出します。時間の流れと共に表情を変えていく壁を眺めるのは、日本人ならではの楽しみです。



珪藻土土壁

珪藻土に使われる土層は、海や湖などに生息する植物プランクトンの死骸で出来ています。小さな穴がたくさん空いたような多孔質で出来ているので、特に調湿効果や保温効果、断熱効果に優れているという点が特徴的です。



漆喰壁

漆喰壁は、砂や糊、消石灰などを混ぜる土壁の塗装仕上げを指します。表面が滑らかなのが特徴で、耐久性や調湿性、防火性、断熱性などに優れている点が特徴です。



プラスター

プラスターは、石灰を使った壁のことを指します。一番の特徴は、その白い色です。漆喰壁に似た滑らかな表面で、西洋漆喰と呼ばれることもあります。昔から石灰と砂を混ぜたものを使用していましたが、現代のプラスターには繊維質や化成のりが使われたものも多いです。



掻き落とし

掻き落とし（かきおとし）左官仕上げの一種で、剣山のように先が針のようにとがった道具を使い、表面を粗く掻き落として仕上げる方法、もしくは仕上がった壁。混入する化粧用骨材の種類や配合によって、多様な表情を創り出すことができる。吹き付けと違い、人手によって作業をするので、表面に細かい凹凸のある柔らかい仕上がりになる。